

ありがとうの気持ちを伝えよう

ファミリーマート

ありがとうの17th 手紙^{てがみ}コンテスト

2025 開催レポート



ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト2025



「ありがとうの手紙コンテスト」は、未来を担う子どもたちに、気持ちを「文字」や「言葉」にして伝えることやコミュニケーションを持つことの大切さ、感謝の気持ちを学んでいただくことを目的に開催するコンテストです。これまで延べ約25,000校・団体からの参加があり、応募総数は約45万通となります。

普段の生活で感じる身近な人への“ありがとう”に加え、自然や環境、住みやすい街へも感謝を綴る作品が増えたことを踏まえ、「SDGs賞」等を制定しています。

子どもたちの学びの意欲を培い豊かな心を育む機会として、本コンテストに参加してみたいかをご紹介します。



応募期間	2025年6月1日（日）～9月30日（火）※消印有効
テーマ	ありがとうの気持ちを伝えよう 普段の生活で感じるありがとうや、私たちの生活を支えてくださっているみなさんへのありがとうを伝えましょう。 持続可能な社会の実現に向けて、自然や環境、住みやすい街への感謝の気持ちを伝えましょう。
応募資格	小学校1年生～6年生 ※国内在住の方に限ります。
文部科学大臣賞	全国から1名 賞品：表彰状・図書カード（3万円分）
最優秀作品賞	全国7地区に分割 低学年（1・2年）、中学年（3・4年）、高学年（5・6年）部門ごとに審査 合計20名 賞品：表彰状・図書カード（1万円分）
審査員特別賞	全国7地区に分割 各ブロック4名 合計28名 賞品：表彰状・図書カード（3千円分）
SDGs賞	全国7地区に分割 各ブロック1名 合計7名 賞品：表彰状・図書カード（3千円分） ※審査員特別賞の受賞者の中より選定します。
学校団体賞	全国7地区に分割 各ブロック1校・団体 合計7校・団体 賞品：表彰状・図書カード（5万円分） ※学校単位・学年単位・クラス単位・団体グループ単位の応募を審査対象とします。 ※応募者が多く、かつ優秀な作品が寄せられた学校・団体に贈られます。
参加賞	本年度は応募者への参加賞の贈呈はありません。

その他の注意事項

- 応募作品は原本に限ります。
- 応募作品は返却いたしません。
- 「学校団体賞」を除き全て個人賞です。
- 応募作品の著作権（著作権法第28条に規定する権利を含む）は株式会社ファミリーマートに移転します。
- 転載を必要とする場合には、「ありがとうの手紙コンテスト事務局」迄お問合せ下さい。
- 個人応募には保護者の同意が必要です。
- 応募作品は全国のファミリーマート店舗に掲出させていただく場合があります。
- 受賞者及び関係各位にはコンテストの広報へご協力をお願いすることがあります。
- キャラクター、特定の企業や商品を表すマークなどは、公表できないという理由から受賞作品として選定できない場合がありますので使用しないでください。
- 応募作品はいかなる理由でも事後修正できません。



応募方法



1	書き方は自由です。作品の大きさはA4 1枚程度で、400文字が目安です。
2	縦書き、横書き、色、デザインなどについては問いません。
3	作品の裏面には、 <u>学年、氏名（フルネーム）</u> を必ず記入してください。
4	応募は、学校・学年・クラス単位でまとめて送る「学校応募」、個人で送る「個人応募」、その他のグループなどで送る「その他団体応募」があります。
5	エントリーシートに記入して同封してください。複数の作品がある場合はエントリーシートの番号順に作品を並べてください。
6	エントリーシートはチェック項目を参照し、正確に記入してください。記入不備や応募者記入欄が作品と一致しない場合は受付できず、審査の対象とならない場合があります。
7	作品は必要に応じてコピーをお取りください。
8	応募は郵送のみ受け付けます。（宅配便・FAX・電子メール不可） 郵便事故による紛失事故を防ぐために、書留郵便、郵便小包もお受けしています。



応募規定



- ・作品は1人1点、自作・オリジナル・未発表のものに限ります。
- ・他のコンテストとの重複応募・コピーは不可となります。
- ・日本国内にお住まいの小学生とします。
- ・応募規定違反・虚偽・盗作が認められた場合、発表後でも受賞取り消しとなります。
- ・日本語で書かれた作品に限ります。文中に外国語を使用されていてもかまいません。

【個人情報の取り扱いについて】

ご記入いただきました個人情報ならびに送付いただきました応募作品につきましては本コンテストの審査、受賞者及び受賞作品の公表、表彰及びそれに係るご連絡、当社の広報活動（当社ホームページ、当社公式SNS、店頭での掲示等を含みます）、及び学校教材などに使用することがあります。必要に応じて事前にお子さまの在籍する学校関係者に通知いたします。なお、法令に定める場合を除き、保護者の方の承諾なしに第三者（業務委託先を除く）に個人情報を提供することはいたしません。当社における個人情報のお取り扱いについて以下の当社のホームページ「個人情報保護方針」よりご確認ください。

https://www./mily.co.jp/other/privacy_policy.html



これまでの取り組み



2024年受賞作品を見る



「ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト」
15周年記念



2024年受賞作品より「ありがとうの手紙」が紡ぐエピソード



主催

株式会社ファミリーマート

後援

文部科学省

全国市町村教育委員会連合会／全国連合小学校長会／全国小学校国語教育研究会／全国小学校道徳教育研究会／全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会／生活科教育研究会／株式会社教育新聞社

審査員長



池上 彰
(ジャーナリスト)

審査員

いとう みく (児童文学作家、日本児童文学者協会会員)

小峰 広一郎 (株式会社小峰書店 代表取締役社長)

野中 柊 (作家・日本ペンクラブ会員)

大澤 寛之 (株式会社ファミリーマート マーケティング本部 サステナビリティ推進部長)

※敬称略



審査員の言葉



審査員長 **池上 彰氏** ジャーナリスト

【プロフィール】

慶應義塾大学経済学部卒業後、1973年NHK入局。報道記者や番組キャスターなどを務め、2005年に独立。

【総評】

ありがとうの手紙コンテストは、回を重ねて17年目を迎えました。手紙にはその年を象徴するものが数多く登場します。米問題、記録的な猛暑などを通して、子どもたちはいろいろなことに気づき、考え、当たり前だと思っていた日常への感謝を綴っています。一方、17年にわたって変わらないのは、子どもたちを思う家族、先生方、地域の方々の愛情です。そして日々自分を支えてくれる方たちへの子どもたちの感謝の気持ちです。普遍的な愛情を深く感じさせてくれた審査となりました。



審査員 **いとう みく** 氏 児童文学作家・日本児童文学者協会会員

【プロフィール】

「糸子の体重計」で日本児童文学者協会新人賞、「朔と新」で野間児童文芸賞、「ぼくんちのねこのはなし」で坪田譲治文学賞を受賞。著書に「かあちゃん取扱説明書」「真実の口」「あおのいえ」など多数。

【総評】

たくさんの手紙を読んでいると、その年の特徴のようなものに気づかされます。2025年という「米」でしょうか。一方で、身近にいる大切な人（もの）にあてた手紙も多くありました。モチーフは違えども、胸に残った手紙に共通していたのは、エピソードが綴られている、ということです。そうした手紙には人の体温を感じます。残念ながら入賞しなかった手紙にも、素晴らしい作品がたくさんあり、審査会は悩ましく、そしてうれしくもありました。



審査員 **小峰 広一郎** 氏 株式会社小峰書店 代表取締役社長

【プロフィール】

大学卒業後、出版関連会社に勤務、2018年より現職。1947年創立以来、子どもの本を専門に現在までに3,500点をこえる書籍を出版。総合的学習や調べ学習に役立つシリーズに意欲的に取り組み、第9回学校図書館出版賞・大賞を受賞した。

【総評】

今年は特に、地域の人々や地域社会に感謝の気持ちを伝える作品が例年以上に多かった印象でした。地域について自分で調べ、学び、成長している子どもたちの姿が目に見え、素晴らしい手紙が数多くありました。「ありがとう」の気持ちをもつことは、持続可能で心豊かな社会の実現につながる大切な精神です。手紙を書くからこそ気づいた想い、手紙だからこそ伝えられる「ありがとう」に出会うことができうれしく思いました。



審査員 **野中 柊** 氏 作家・日本ペンクラブ会員

【プロフィール】

ニューヨーク州在住中の1991年「ヨモギ・アイス」で海燕新人文学賞を受賞して作家デビュー。小説「小春日和」「猫をおくる」など、童話「パンダのポンポン」シリーズ（既10巻）、「本屋さんのルビねこ」シリーズ（既7巻）、「ちいさな花咲いた」など著書多数。エッセイ、翻訳なども手がけ、幅広い執筆活動を行っている。

【総評】

子どもたちの心は、世の中のありようや、大人たちの生き方を映しだす鏡だと思います。その曇りのなさに、はっとさせられることも多いのですが、今年も「ありがとう」の手紙の数々に、今という時代や大人たちの姿がくっきりと現れているのを感じました。そして、子どもたちが借りものではない、自分なりの言葉で——幸せなときのみならず、つらいときや悲しいときも——「たった今、生きていることの素晴らしさ」を伝えてくれていることに、私自身、大いに励まされ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

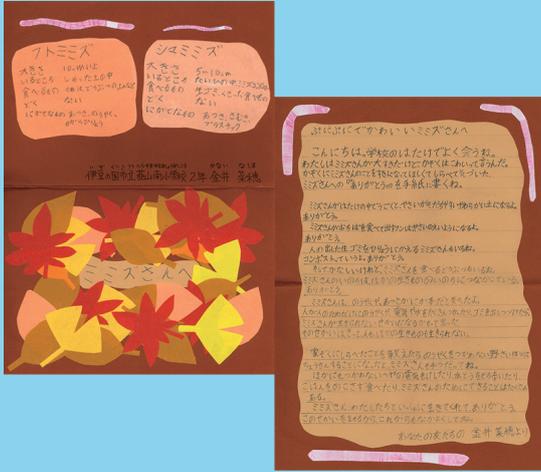


審査員 **大澤 寛之**

株式会社ファミリーマート マーケティング本部 サステナビリティ推進部長

【総評】

子どもたちが日常の中で感じたことを、飾らない言葉で一生懸命に綴った手紙の数々。整った文章かどうかよりも、その言葉の奥にある「素直な心」がダイレクトに伝わってきて、胸が熱くなりました。こうした純粋な想いを真正面から受け止める機会をいただけたこと、大変ありがたく思います。そして、手紙を通じて感謝を伝えることの大切さが今の時代にも求められている証として、2025年は新規でご応募いただいた学校が増えたことも嬉しく思います。多くの方々を支えられている本コンテストを長く継続し、子どもたちの豊かな心を育む一助となれるよう努めてまいります。



金井 菜穂さん

伊豆の国市立葦山南小学校 2年

審査員の講評

作品の構成、内容、共にとても素晴らしい。日の目を見ること
がないミミズに焦点をあて、その効用について具体的にわか
りやすく伝え、家族と一緒に野菜作りに挑戦することにま
までつなげている。貼り絵も上手にできており、ミミズへの愛
情が伝わってくる作品。

— 受賞お祝いコメント —

★★★★ 校長先生 ★★★★★

金井菜穂さん文部科学大臣賞、おめでとうございます。ミミズの小さな働きに目を向け、そこから「農業をつかわない」という大きな環境問題、そして私たちが未来のためにできることへと、しっかりと考えていることに心から感動しました。普段、見過ごしてしまいがちな足元の生き物たち。その大切な役割に気づき、作文を通して力強く訴えてくれたあなたの視点は、私たち大人にとっても大切な気づきを与えてくれます。この手紙は、ただの「ありがとう」ではなく、地球を大切にするための未来へのメッセージです。これからも、私たち大人が気づかない身のまわりにある「ありがとう」をたくさん見つけて、また教えてください。素晴らしい手紙をありがとう。

★★★★ 保護者様 ★★★★★

菜穂さん、文部科学大臣賞の受賞おめでとう。夏休みは一緒に図書館へ何回も行ったね。ミミズから地球温暖化、野菜作り… どんどん興味関心を広げていく姿に驚かされました。これからも好奇心と『ありがとう』の気持ちを大切に持ち続けてください。



受賞作品 最優秀作品賞



最優秀作品賞は、各ブロック・各部門の中で最も優れた作品に贈られる賞です。

甲乙つけがたい作品の中から選ばれた受賞作品を紹介します。



北海道・東北

低学年の部



庄司 知加さん **2年**

山形市立蔵王第一小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

抜けてしまった乳歯を通して、乳歯が頑張っていたことや役に立ってくれていたことに気づき、感謝の気持ちを伝えている。感じたことを素直な言葉で表現できている。

中学年の部



須貝 蓮さん **3年**

仙台市立荒町小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

幼稚園でいつも励ましてくれた園長先生へ、がんばっているいろいろなことに挑戦し、成長した姿を伝えながら、しっかりと感謝の気持ちを伝えている。印象に残る作品。

高学年の部



石井 陽子さん **6年**

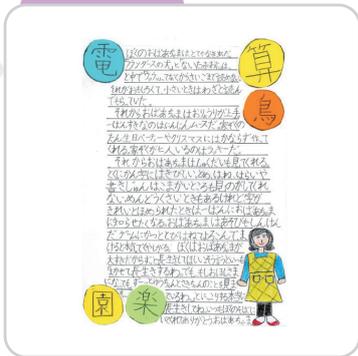
聖ドミニコ学院小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

学童が存在感を発揮できる場所であることや、学童の先生が良いところを見つけてほめてくれる、そのうれしい気持ちを素直な言葉でしっかり表現できている。字も丁寧で上手。

関東1

低学年の部



岡本 侑也さん 2年

サレジアン国際学園目黒星美小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

おばあちゃんとのやりとりが生き生きと、そしてユニークに表現されている。エピソードも具体的にしっかりと書いており、読み手を引きつけるテクニックを感じる。

中学年の部



藤井 晏さん 3年

サレジアン国際学園目黒星美小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

ひじきの煮物を通して、感謝を伝えるところがとても新鮮で良い。おばあちゃんとお母さんの味の違いもほほえましく、味を引き継いでいきたいという姿勢も素晴らしい。

高学年の部



吉澤 咲さん 5年

狛江市立狛江第五小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

本を読むようになったきっかけ、文字を覚えて世界が広がったことなど、本への感謝の気持ちをうまくまとめている。見開きになっている本のデザインからも工夫が伝わる。

関東2

低学年の部



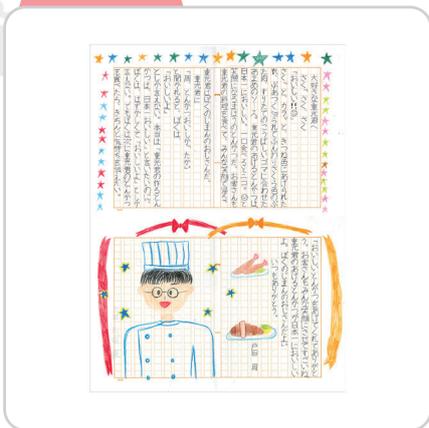
長崎 大和さん 2年

市原市立京葉小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

ランドセルを開けるとお手紙になっているアイデアが素晴らしい。買ってもらったランドセルを通して、天国のおじいちゃんへ感謝の気持ちを素直な言葉でしっかり伝えている。

中学年の部



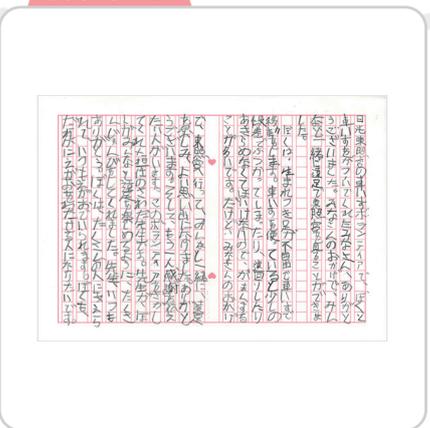
戸田 周さん 3年

古河市立水海小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

とんかつの描写がとても上手で印象的。普段はなかなか言えないおじいちゃんへの気持ちを、この手紙を通してきちんと伝えている。字も丁寧で、イラストからも気持ちが感じられる。

高学年の部



永嶋 陽さん 5年

宇都宮市立細谷小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

車椅子の移動に協力してくれた方々へ、遠足を楽しみ、良い思い出になったことへの感謝の気持ちをしっかりと伝えている。自分も誰かを笑顔にしたいという最後のまとも素晴らしい。

中部・東海

中学年の部



平安紅葉さん 4年

豊橋市立羽根井小学校

★★★ 審査員の講評 ★★★

古希を迎えるおばあちゃんへ、アイデア満載のお手紙から大好きで大切に想う気持ちがしっかりと感じられる。大活躍している様子がくわしく描かれており、人柄が伝わってくる。

高学年の部



堀口七碧さん 6年

富山大学教育学部附属小学校

★★★ 審査員の講評 ★★★

親戚のおじいちゃんから聞いた、空襲体験談から感じた“命の重さ”について、丁寧に綴られている作品。話をしっかりと受け止め、自分で考えたことをきちんと言葉で表現できている。

関西

低学年の部



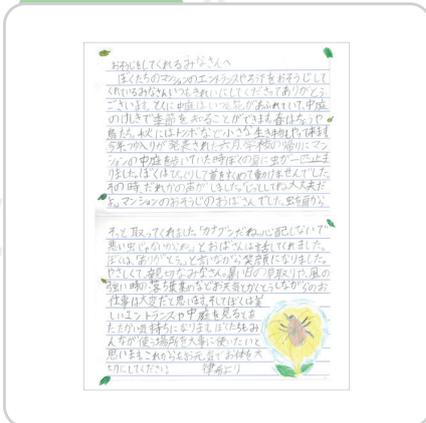
福山夏生さん 1年

京都聖母学院小学校

★★★ 審査員の講評 ★★★

おいしそうなおにぎりの貼り絵とにっこり笑顔の楽しい絵が目を引き。一文一文が短いが、気持ちがこもっていることが感じられ、リズム感のある文章も心地よい。

中学年の部



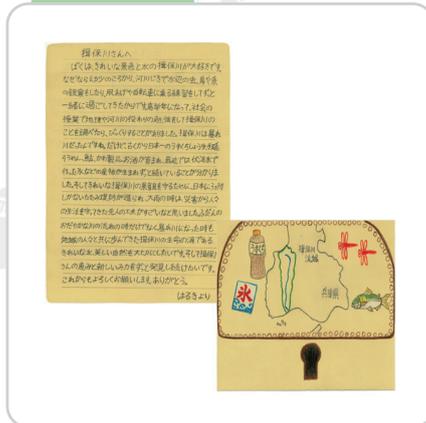
笠井律希さん 3年

京都聖母学院小学校

★★★ 審査員の講評 ★★★

季節を感じられるいつもきれいな中庭の様子から、おそうじをしてくれる方々へ目を向け、感謝の気持ちを優しい思いやりのある言葉で表現している。字も丁寧。

高学年の部



田中晴紀さん 5年

太子町立太田小学校

★★★ 審査員の講評 ★★★

地元の揖保川の素晴らしいところを多く示しながら、川の歴史にも触れ、地域の人々に愛され続けてきた様子や大切に想う気持ちをわかりやすく上手にまとめている。イラストもとても良い。

中国・四国

低学年の部



中山 裕稀さん 2年

徳島文理小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

『銀河鉄道の夜』の内容をしっかりと理解し、生きることや命の大切さにも触れている、とても印象に残る作品。夜の背景に浮かび上がる汽車のイラストも素晴らしい。

中学年の部



加藤 朱莉さん 3年

大洲市立大洲小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

家族の一員のようなタオルケットへの気持ちがこまやかに述べられている。4枚のタオルケットが目に見えてくるような作品。姉から受け継いでいるのも素晴らしい。

高学年の部



泰江 さくらさん 6年

徳島文理小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

楽しかった芋掘りの様子が生き生きとした言葉で書かれている。その体験を通してのひいおばあちゃんへの思いやりを感じる。イラストが内容を一段と引き立てている。

九州・沖縄

低学年の部



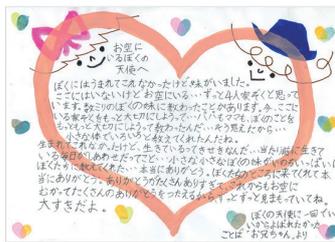
川田 青葉さん 2年

天城町立岡前小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

転校した友だちへの感謝の気持ちがよく伝わってくる。お別れの時の悲しい気持ちと、会える日までがんばろうという前向きな気持ちが、きちんと言葉で表現できている。恐竜の絵も上手。

中学年の部



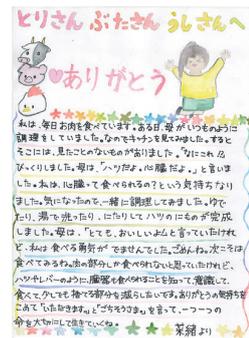
坂口 夏紘さん 3年

大野城市立大野北小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

生まれる前に亡くなってしまった妹への気持ちが十分にくみ取れる。生きていることへの奇跡と幸せをしっかりと受け止め、妹への感謝の気持ちをきちんと伝えている。イラストもかわいい。

高学年の部



井上 菜緒さん 6年

鹿児島市立皇徳寺小学校

★★★★ 審査員の講評 ★★★★★

お母さんと肉を調理した時の出来事が丁寧に書かれており、その時思った命への感謝がうまく表現されている。体験し、自分で考え、得たものの力強さを感じる。



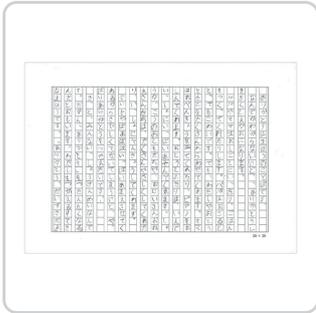
受賞作品 審査員特別賞



審査員特別賞は、優秀な作品がひしめく中、惜しくも最優秀作品賞を逃した作品から、審査員の先生方によって選ばれた賞です。



北海道・東北



島貫 結月さん 1年

長井市立豊田小学校



鈴木 航成さん 3年

郡山市立喜久田小学校



金子 陽詩さん 5年

会津若松ザベリ学園小学校



金田 優花さん 6年

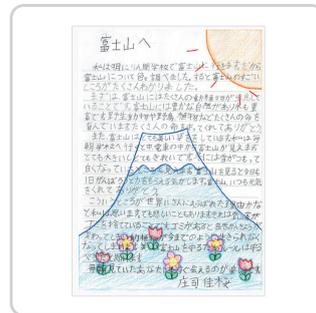
宮城教育大学附属小学校

関東1



庄司 乙葉さん 1年

星美学園小学校



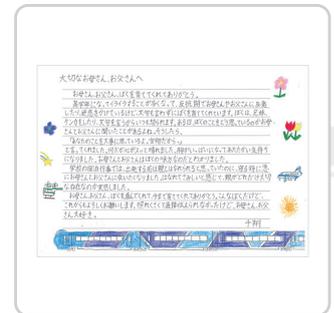
庄司 佳桜さん 3年

星美学園小学校



唐澤 花穂さん 4年

聖セシリア小学校



植竹 千翔さん 6年

足立区立加平小学校

関東2



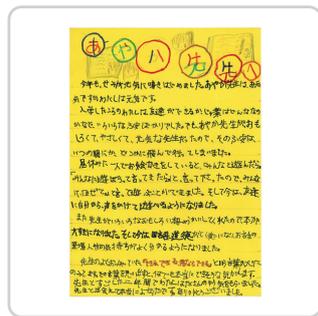
向山 凜希さん 1年

大田原市立川西小学校



三谷 紗良さん 2年

白岡市立西小学校



玉野 想さん 4年

那須塩原市立黒磯小学校



堀越 環さん 5年

寄居町立寄居小学校

中部・東海



平安 右京さん 1年

豊橋市立羽根井小学校



山本 桃佳さん 4年

春日井市立小野小学校



原田 実乃梨さん 5年

碧南市立西端小学校



藤木 彩生さん 6年

春日井市立白山小学校

関西



塚崎 瑛大さん 2年

仁川学院小学校



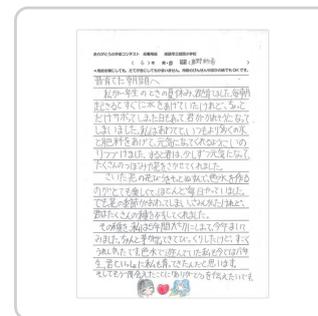
和智 泰佑さん 5年

堺市立東三国丘小学校



畑中 結翔さん 5年

智辯学園和歌山小学校



廣野 紗希さん 6年

※「廣」は、まだれに「黄」
姫路市立城西小学校

中国・四国



竹内 美織さん 2年

徳島文理小学校



勢井 梓さん 2年

徳島文理小学校



木下 いちかさん 3年

徳島文理小学校



池田 陽飛さん 6年

新見市立神郷北小学校

九州・沖縄



矢田 りのさん 1年

敬愛小学校



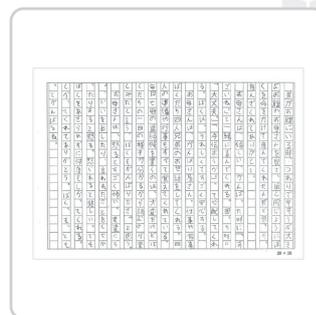
小吹 佳輝さん 5年

始良市立始良小学校



岩崎 実生さん 5年

日出町立日出小学校



田原 旺祐さん 5年

南九州市立穎娃小学校



2024年より新設されたSDGs賞！
各審査員が特に高く評価した作品の中より、全国7ブロック各1名を選定しました。

北海道・東北



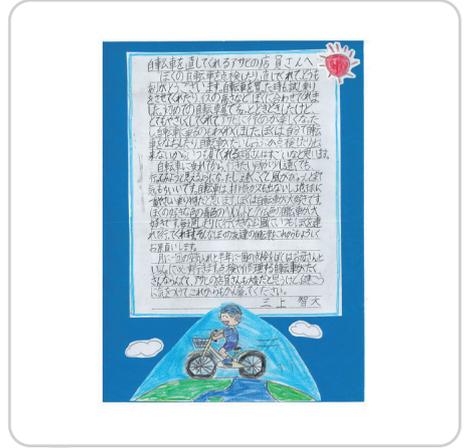
三浦 颯人さん 3年
聖ドミニコ学院小学校

関東1



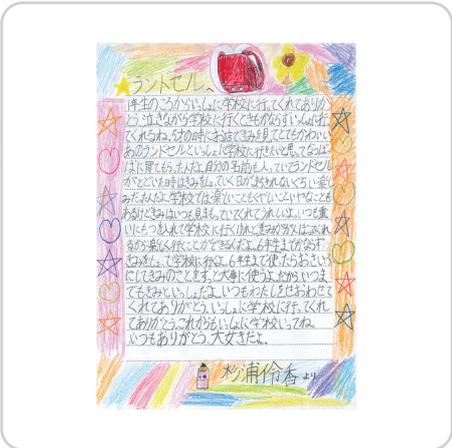
塚田 七海さん 3年
聖セシリア小学校

関東2



三上 智大さん 3年
星野学園小学校

中部・東海



杉浦 伶香さん 4年
碧南市立西端小学校

関西



東野 琴音さん 4年
姫路市立城西小学校

中国・四国



松本 紗奈さん 6年
福山市立瀬戸小学校

九州・沖縄



名富 遥花さん 3年

天城町立岡前小学校 与名間分校

学校団体賞

学校団体賞は、学校単位や団体での応募をいただいた中から、複数の観点から審査を行った結果、優秀な作品が多く寄せられた学校に贈られます。



北海道・東北ブロック

岩手県
盛岡市立河北小学校

校長先生のコメント

本校では、思いやりの気持ちを持ち、表現できる子の育成を目指し、対話を大切にする道徳教育や集会活動等、さまざまな取り組みを展開しています。受賞を励みに、さらに気持ちを表現できるよう、がんばっていききたいと思います。



関東1ブロック

神奈川県
聖セシリア小学校

校長先生のコメント

本校は、カトリック校として「すべての恵みに感謝すること」をこどもたちに伝え続けています。このような教育の実践が今回の受賞につながっていると感じています。この賞に関わる全ての人に感謝いたします。



関東2ブロック

埼玉県
星野学園小学校

校長先生のコメント

素敵な賞をいただきありがとうございます。行事を終えると、「校長先生、ありがとうございます」と声をかけてくれる児童が多くいます。人の良いところを見つめ、前向きにとらえる「ありがとう」の言葉が今以上に響く、温かい学校になるよう児童とともに努力していきます。



中部・東海ブロック

愛知県
碧南市立西端小学校

校長先生のコメント

4年連続で、「学校団体賞」を受賞することができ、とてもうれしく思います。これからも「顔を見て、にこっと笑顔で、べっこりおじぎ」を合言葉に、あいさつの輪を広げ、思いやりの心を育てていきたいと思っています。



関西ブロック

兵庫県
姫路市立城西小学校

校長先生のコメント

ありがとうって言ったとき、ありがとうって言われたとき、心がふわっと温かくなりますよね。「ありがとう」という言葉を通してこどもたちの心が温もりでいっぱいになることを願っています。



中国・四国ブロック

愛媛県
今治市立乃万小学校

校長先生のコメント

「ありがとう」なんて素敵な言葉なのでしょう。「ありがとう」は人のつながりを強固にするパワーワードだと感じます。素晴らしい賞をいただいたことを機会に、今後も「ありがとう」があふれる学校づくりを進めて参ります。



九州・沖縄ブロック

鹿児島県
鹿児島市立西紫原小学校

校長先生のコメント

九州・沖縄ブロック低学年部門での1年生の最優秀作品賞受賞に続き、学校団体賞を受賞することができ光栄です。SNS等が通信手段の主流になっている昨今、手書きの手紙で「ありがとう」を伝えることのよさをこどもたちに体験を通して感じ取ってもらいたいです。